

# 総務省総合職 事務系(理工系)

先輩からのメッセージ



証拠に基づく政策立案(EBPM)が推進されている昨今、  
複雑な経済社会の姿を映し出す「鏡」としての統計データの  
価値はますます高まっています。  
あなたも「理工系事務官」として、国家の行方を支える  
情報インフラづくりにチャレンジしてみませんか。

## 目次

01 統計局長挨拶 「データ時代」の統計行政 ～信頼される統計データの開発・提供への不断の挑戦～	p2
02 Interview 国勢統計課長インタビュー	p3
03 Career Path キャリアは“統計”から広がる 公務員としての挑戦と成長の軌跡	p5
04 Cross Talk 若手職員の同期対談	p7
05 若手職員の1日 若手職員のリアルな1日をわかりやすくご紹介	p9
06 Q&A よくある質問	p10

01

統計局長挨拶



「データ時代」の統計行政

～信頼される統計データの  
開発・提供への不断の挑戦～

総務省統計局長

永島 勝利 平成4年 入省



### 【政府統計の信頼を維持し続けるために】

今世紀は「データ時代」とも言われますが、ChatGPTの登場以降、社会のあらゆる場面でAIが活躍し、大学等のアカデミアの世界でも、データサイエンスが花形分野の一翼を占めるなど、データを分析し、活用することの重要性は、官民を問わず、今後、ますます高まっていくと思われれます。一方で、世の中に流布しているデータには様々なものがあり、まさに玉石混交の状態です。そうした中において、政府統計は、様々な分析に利用できる、信頼できるデータとして高い評価をいただいています。例えば、国勢調査の結果から作成される人口のデータは、法定人口として、衆議院議員選挙区の区割りの改定や地方交付税の算定に使われるとともに、少子高齢化、地方創生などの各種施策に幅広く利用されていますし、店舗の立地計画や商品・サービスの需要予測など民間ビジネスでも活用されています。

統計局では、国勢調査を始め、経済センサス、消費者物価指数、労働力調査、家計調査などの主要統計調査を企画・実施し、その結果を分析・公表しています。これに加え、近年では、ビッグデータを活用した指標の開発、統計オープンデータの高度化、データサイエンティストの育成、統計ICTの国際展開など、社会や技術の変化に対応して、今後とも信頼される統計データを開発・提供し続けられるよう、多角的な活動を行っています。

### 【多彩なキャリアパスと多様な働き方のできる職場環境】

総務省では、文系の職場と思われがちな国家公務員の中であって、理工系出身の多くの職員がリーダーとして活躍しています。理工系として培われた論理的思考や分析力、数式を理解する力等は、大きな強みとして、公務の中でも如何なく発揮されています。活躍の場は、省内だけでなく、他府省や地方公共団体、更には、国際機関への出向などの海外も含め、非常に多岐にわたります。また、テ

レワークやフレックスタイム制など、職員がそれぞれのライフステージに合わせた働き方を選択できるよう、統計局では、職場環境の整備を率先して進めており、育児等で時間制約がある方を含め、多様な職員が活躍しています。

自分自身について言えば、平成4年に公務の世界に入り、既に30年以上が過ぎましたが、これまで、統計調査の企画や分析といった政府統計業務はもちろん、青少年行政や政府広報の仕事を含め、様々な業務に携わる機会をいただきました。どの仕事も外からは分からないことを秘めていますから、常に新たな発見や驚きに満ちており、充実した日々を送ることができました。

### 【ご関心をお持ちの皆様へ】

ここでは、皆さんの先輩となる職員からの様々なメッセージなどをお届けしています。ご関心があれば、是非、一読いただくとともに、さらに知りたいことがあれば、気軽にお問合せください。また、総務省では、業務説明会やインターン募集なども行っていますので、ご興味があれば、参加して知見を深めていただければ幸いです。情熱に溢れる皆様と共に総務省で働ける日を心待ちにしています。





## 02

### Interview

## 国勢統計課長インタビュー



総務省統計局統計調査部

国勢統計課長

**中村 英昭** 平成11年 入省

**八木**：本日は、総務省に興味を持たれている皆様に向けて、理工系事務官の魅力を実感していただけるようなお話を中村課長からお伺いできればと思います。最初に、中村課長が平成11年に入省されてから、これまでにどのような仕事に携わってこられたのか、お聞かせください。

**中村**：私は大学で数学を専攻しており、「大学で培った数理的な素養を活かしつつ、幅広い仕事がしたい」という想いを胸に、理工系でも事務官として採用される総務省に入省しました。入省後数年は、消費者物価指数の基準改定や統計調査の標本設計の見直しといった数理的な業務に携わっていましたが、その後、海外留学を経て、行政改革や選挙における電子投票、携帯電話のエリア整備など、統計行政以外の幅広い分野の仕事を経験し、大きく成長できたと考えています。また、統計行政の中でも、統計改革の推進や各府省が実施する統計調査の審査など、様々な経験をしてきました。

現在は、統計局の国勢統計課長として、間近に迫った令和7年国勢調査を円滑かつ確実に実施するための準備を進めてい

ます。

**八木**：私も中村課長の下、国勢調査の実施準備を担当していますが、国の最も基本的で重要な調査を実施するというスケールの大きい仕事に携わることができ、日々やりがいを感じながら仕事をしています。

さて、理工系事務官として総務省で働くことの魅力は何だとお考えでしょうか。



**中村**：総務省は、行政管理、地方自治、情報通信といった幅広い行政分野を担当しています。私の経歴からも分かるように、理工系事務官として総務省に入省された方は、統計行政に軸足を置きつつ、総務省の他部局から他府省、国連などの国際機関に至るまで、幅広い分野の多彩な現場に配属されることとなります。行

政の様々なフィールドで自分の持つ強みを存分に活かし、さらにそこで培った経験をまた新たなフィールドで花開かせることができる、それが何よりの魅力ではないでしょうか。

**八木**：統計行政に軸足を置きつつ、自分の希望や能力に応じて多種多様な仕事をするチャンスがあることは、就職活動をしていた頃の私も非常に魅力的に感じていました。

では、そんな理工系事務官に求められる素養とは、どのようなものでしょうか。



**中村**：理工系の学生の皆さんが研究などを通じて日々鍛えられている理工系の素養、特に論理的思考力が、まさに求められているものです。

研究においては、実験や解析の結果を

論理的に組み立て、それを他の人に分かりやすく説明することが求められると思いますが、行政においても、政策を企画立案し、それを様々な立場の人たちに論理的に分かりやすく説明することが求められます。どのような行政分野を担当したとしても、この能力は十分に活かすことができるものです。

また、理工系事務官のキャリアパスの中心となる統計行政の分野は、調査を取り巻く環境や統計データへのニーズの変化を受けて、常に変革が求められる分野でもあります。

皆さんの持つ理工系の素養を、データを扱うための数理的な能力と行政官に求められる論理的思考力の両面から、存分に活かしていただくことを期待しています。

**八木**：私が担当した、国勢調査における外国人世帯への対応の見直しも、外国人世帯の急増という社会の変化を踏まえて対応が求められていたものでした。どうすればより正確なデータが得られるか検討し、考えたことを上司に説明して対応方針が固まり、新たに作成したリーフレットを形にできたときには大きな達成感が

ありました。また、国勢調査の関係法令の改正業務も担当しましたが、一見理工系とは程遠く思える法令業務も、その核を成すのは論理的思考力であると実感しました。今後も、自分の持つ理工系の素養を活かして仕事に取り組んでいきます。それでは最後に、理工系事務官に興味を持たれている皆様に、メッセージをお願いします。

**中村**：変化の激しい時代の中で、様々な社会経済の変化を踏まえながら自分の頭で解決策を模索し、形にしていく経験は何物にも代えがたい貴重なものです。総務省には、そうした経験ができるフィールドが多々あり、仕事を通して大きく成長できることは間違いありません。皆さんの挑戦を、心からお待ちしています。



聞き手

令和5年 入省  
総務省統計局統計調査部  
国勢統計課企画係 併任 指導係  
**八木 海有**



## Career Path

# キャリアは“統計”から広がる 公務員としての挑戦と成長の軌跡



総務省政策統括官(統計制度担当)付  
統計委員会担当室 次長

**赤谷 俊彦** 平成17年 入省

## 現在の業務

公的統計全般に関する調査審議機関として総務省に設置されている審議会「統計委員会」の事務局業務に携わっています。

公的統計の整備に関する基本的な計画の立案に係る審議を始めとして、統計委員会では学識者たる委員の皆様がより良い統計の作成・利用のために様々な議論を行っています。これらの議論が円滑に進むよう、議事運営やとりまとめのサポートを行うのが主

な業務です。そのため、現在の業務においては事務方が前面に立つという場面はほとんどありません。

他方で、統計委員会の審議結果について世の中の絶対の信頼をいただくためには、環境整備が不可欠であることも常に感じています。審議がうまく進んだ裏では、我々事務方が小さくガッツポーズをしています。

## これまでのキャリアを振り返って

これまで担当した業務を振り返ると、統計調査や統計制度の企画立案、情報通信分野の通商交渉、独立行政法人の経営企画、総務省の働き方改革、秘書業務、デジタル・ガバメントの推進と極めて多岐にわたります。一つ一つの業務から大きな学びを得ることができ、次のキャリアにしっかりとつながっています。

これは、「統計データというプロダクトがある以上、その作成プロセスについて不断の見直しを行い、最後まで品質に責任を持ち続けることが求められる」という統計行政の特徴とは決して無関係ではないのだろうと感じています。プロダクトへの責任を持つ姿勢を大事にして、決してやりっぱなしにはせず、常に業務プロセスの改善を意識していることがキャリアパスにも影響しているものと確信しています。

統計行政は、昨今華々しさと共に語られるデータサイエンスのイメージとはやや異なり、統計データ作成に伴う泥臭さもあります。しかし、それが一番の醍醐味でもあり、統計行政に携わる公務員にしか味わえない魅力があります。皆様と将来、この魅力を共感できるようになることを楽しみにしています。



## Career Step

平成17年  
2005年

入省

## 統計法の全面改正 2006年～2007年

“「行政のための統計」から「社会の情報基盤としての統計」へ」というスローガンを掲げた、統計法を60年ぶりに全面改正するプロジェクトに参画しました。理工系出身でありながら行政法の基礎を学びつつ統計の考え方を法令に落とし込む、という作業はハードなものでしたが、公的統計の体系的な整備や利活用推進に関する制度が試行錯誤の末に実際に形になっていく体験は、何物にも代えがたいものであり、行政官としてのキャリアパスを歩んでいく上での基盤となりました。

## ICTを活用した総務省職員の働き方改革

2017年～2018年

総務省が運用する情報システムの中長期的な計画の取りまとめを行うとともに、有志職員から構成される「総務省働き方改革チーム」の事務局を務めました。まだテレワークなどの柔軟な働き方に関する取組が先進的と捉えられていた頃ではありましたが、省内横断的に意識改革、業務改革及びインフラ整備の3つの観点から議論し、意欲的な提言をまとめるに至りました。その後、新型コロナウイルス感染症への対策を迫られつつも業務継続ができたのは、コロナ禍以前から総務省全体として働き方改革を推進していたことが大きく寄与していたものと考えています。

## 秘書業務 2016年～2017年、2018年～2020年

総務大臣政務官の秘書業務を1年、内閣情報通信政策監(政府CIO)の秘書業務を2年経験しました。単にスケジュール管理などを行うだけではなく、国会や重要なイベントにてどのようなメッセージを発し、組織のプレゼンス向上に寄与するのかといったことを常に考え、お仕える幹部と原課との橋渡し役を担いました。また、公務員出身ではない方の考えを身近に学び、視野を広げる貴重な機会となりました。



令和7年  
2025年

現在



総務省国際戦略局  
国際戦略課AI政策推進室 主査

河原 里佳



総務省統計局統計調査部  
経済統計課経済センサス室 企画係長

磯田 健太

令和3年4月 総務省入省  
同 統計局統計調査部国勢統計課労働力人口統計室  
令和4年8月 統計局統計調査部経済統計課  
令和6年7月 国際戦略局参事官室 主査  
令和7年7月 現職

令和3年4月 総務省入省  
同 統計局統計調査部消費統計課  
令和4年7月 独立行政法人統計センター総務部経営企画課  
令和5年7月 内閣府規制改革推進室  
令和7年7月 現職

### ▶ 自己紹介

**磯田:** 私は現在、統計局で令和8年経済センサス-活動調査に携わっています。この調査は、一言で表すと「経済の国勢調査」です。我が国における事業所・企業の経済活動を全国的・地域別に明らかにするとともに、事業所・企業を対象とした各種統計調査の母集団情報を得ることを目的としたもので、全ての事業所・企業を対象に従業者数、売上高等の基本的な事項を調査しています。得られた統計データは、国民経済計算(GDP)の算出や、政府の各種施策の基礎資料に用いられています。

学生時代は地球惑星科学を専攻し、生命の起源に関する研究に取り組んでいました。

**河原:** 私は、今は統計関係の業務からは少し離れて、総務省国際戦略局AI政策推進室というところに所属しています。主な業務はG7やG20などの国際会議でのデジタル分野の議論や、2023年のG7で日本が議長国として立ち上げた「広島AIプロセス」を中心とした、国際的なAIガバナンスに関する議論への対応です。数字より英語を使う仕事で、統計局から異動した当初は苦労しましたが、国際交渉を最前線で学べる貴重な経験をさせていただいています。

学生時代は宇宙物理学(理論)を専攻しており、分子雲衝突による星形成をシミュレーションする研究を行っていました。

### ▶ 「理工系事務官」を知ったきっかけ

**磯田:** 私は、社会全体に裨益するインパクトのある仕事に携わりたいという思いから、漠然と国家公務員を志望していましたが、

「〇〇省でこんなことをやりたい」といった具体的なイメージまでは描けていませんでした。そこで、各省庁の説明会に積極的に参加したところ、最も印象に残ったのが総務省でした。

説明会では、先輩職員の方々から総務省の幅広い業務内容や、仕事に対する熱い思いを直接伺うことができ、「こんな人になりたい」と感じるようになりました。また、「理系だったら大歓迎」と言っていたことも、私の志望を後押しする大きな要因となりました。

就職活動をしている皆さんには、思わぬところにきっかけが転がっていることもあるので、視野を広く持って、積極的に説明会などの機会に足を運んでほしいと思います。

**河原:** 私は正直なところ、研究の道に進む自信がなくなってしまい、就職を考え始めたときに、選択肢のひとつとして国家公務員を目指した、というのが最初のきっかけでした。そのため、民間企業のインターンシップにも参加しながら、漠然と理系の知識を生かせる仕事を探していたのですが、研究職に近い仕事にはなかなか踏み切れず、悩んでいた時に出会ったのが「理工系事務官」でした。

説明会で、理工系の素養を活かしながら行政に携わり、国民生活の基盤となる公的統計を作成することで社会全体を支える仕事だと聞き、自分自身の考え方も合う部分があるかなと感じ、志望するようになりました。

**磯田:** とは言いましたが、正直に言うと、官庁訪問前は他のところと迷っていました。しかし、総務省の面接官の方が非常にフレンドリーで、楽しそうに仕事の話がされている姿を見て、「ここで働きたい」



と強く思うようになり、最終的に総務省を志望する決意が固まりました。

**河原:** 私も同じです。リサーチを始めたのは正直遅めだったのですが、直前まで先輩職員の方々いろいろな話を聞かせていただきました。皆さんとても親しみやすく、職場の雰囲気もイメージしやすかったのが印象的でした。

### ▶ 広がる活躍の場

**磯田:** 特にここ最近では、理工系の事務官がさまざまなフィールドで経験を積める土壌があると感じています。私自身も、現在の部署に配属される前には内閣府に出向し、規制や制度改革の取組に携わっていました。簡単に説明すると、古くなったルールを技術進歩に合わせてアップデートすることで、我が国経済社会の活性化を図る取組です。最初は法律の読み方すら分かりませんでしたが、仕事するうちに、ルールがすべて文章化されていて、どの部分をどう改正すれば新しいビジネスが実現可能になるのかを考えることに面白さを感じるようになりました。

また当時、改革の重要性を示すためにエッセンシャルワーカーの労働者数の推移を調べる必要があり、労働力調査に携わったことがある河原さんに教えてもらいました。統計局での経験が出向先でも活かるといえることを実感しました。

**河原:** そんなこともありでしたね。私が最初に配属された労働力調査は、歴史ある経常調査で、外部からの問合せも多かったのですが、磯田くんからの質問にもすぐ答えられました笑

先ほど志望動機の話をしました。私にとって総務省の所掌が広いことも魅力のひとつでした。統計という基盤となるデータを作る仕事はもちろん、そのデータを正確に届けるための制度やインフラ整備も重要です。現在は省内の別の局で、そうした制度側の業務に携わっています。

今の業務でも統計の話はたびたび出てきます。データ利活用の



文脈では、元となる統計の整備が課題になりますし、AIやインターネットの普及といったテーマでも、実態把握のための統計調査が必要不可欠です。

一方で、政策立案の現場では、統計を活用すべき場面はまだあるにもかかわらず、担当者の知見が浅いために情報を得るハードルが高くなってしまっていると感じることもあります。その意味でも、統計の知見を持った我々が、幅広い分野で活躍することに意味があると思いますし、そのためには自分自身がしっかり知見を持っていなければと、外に出て改めて感じました笑

**磯田:** 他にも、先輩職員の中には、デジタル行財政改革会議事務局や内閣府人工知能政策推進室に出向している方もいて、統計やデータの重要度の高まりに伴い、益々活躍の場は広がっていると感じます。

### ▶ 5年目になって思うこと

**河原:** 説明会で、先輩職員の方から「日本で公的統計を担っているのは政府だけで、いわゆる同業他社は海外にしかない」と伺ったことも印象に残っています。言われてみれば当然のことですが、現代社会ではデータを扱う仕事が多数ある中で、公的機関でしかできない役割があるというのは、魅力のひとつだと思います。実際、経済構造実態調査に携わっていた際には、英国統計局の方と意見交換する機会がありました。国によって政府機関の仕組みも法律も、国民性も異なる中で、協力しながら時代に合った統計を作り、政策立案に役立てていく、というのはまさにここでしかできない仕事かなと思います。

**磯田:** 先ほどの話にもつながりますが、私は統計に軸足を置きながら、さまざまな経験を積めることを期待して理工系事務官の門を叩いたのですが、ここまで思い描いていた通りのキャリアを歩めるとは、正直予想していませんでした。

少しでも興味を持ってくださった方、特に私と同じような考えを持って就職活動をされている方には、ぜひ一度説明会などで話を聞いていただけると嬉しく思います。

## 志望者へのメッセージ



「理工系事務官」という採用区分ではありますが、それぞれが統計を軸にしつつも、それぞれのバックグラウンドを生かして多様な分野で活躍しています。これからも益々活躍の場が広がっていくであろう中で、多様な経験をお持ちのみなさまと一緒に働けることを期待しています！



統計法では、公的統計は、「国民にとって合理的な意思決定を行うための基盤となる情報」とされています。民主主義の根幹とも言える統計の作成に携わりつつ、多様な経験を積める理工系事務官は、非常に魅力的な職業だと思います。少しでも興味をお持ちの方は、ぜひ足を運んでみてください。

※本文中で触れられている各統計について、より詳しく知りたい方は、以下のHPをご覧ください。

●経済センサス-活動調査: <https://www.stat.go.jp/data/e-census/2026/index-2.html>

●経済構造実態調査: <https://www.stat.go.jp/data/kki/>

●労働力調査: <https://www.stat.go.jp/data/roudou/>



## 05 若手職員の1日

令和6年 入省  
倉田 実侑 総務省統計局統計調査部  
消費統計課物価統計室

物価統計室で消費者物価指数の公表業務に従事しています。  
消費者物価指数は消費者が購入する財やサービスについて、物価の変化を客観的に示した統計です。消費者物価指数は、金融政策の判断や年金給付額の改定などに用いられています。



令和6年 入省  
井手 健太 総務省統計局統計調査部  
経済統計課

経済統計課で経済構造実態調査の審査及び公表業務に従事しています。  
経済構造実態調査は企業を対象にした調査で、総務省・経済産業省・独立行政法人統計センター・委託事業者の4者が協力して実施しています。今年度は、今年実施している調査の運営と昨年実施した調査の集計審査及び公表を同時に行っています。

### Schedule 倉田係員のとある1日

**8:00** 登庁 メールチェック  
今日は、前月分の消費者物価指数(全国)を公表する日なので、早めに登庁します。  
登庁したら、まずメールの確認をします。

**8:30** 公表当日業務  
8時半に公表後、公表対応業務が始まります。今日は記者会見に同席します。会見での様子を報告書にまとめ、上司に報告をします。資料配布のため、議員会館に行くこともあります。

**11:00** 統計ユーザーからの問合せ対応  
公表された結果について、マスコミや地方自治体の職員から問合せの電話がかかってきます。各品目の調査銘柄や、データの掲載箇所、当月結果の概要などの質問事項に対して、分かりやすく丁寧に説明します。

**12:00** お昼休み  
庁舎の付近には、飲食店が多数あります。自席でお弁当を食べることもありますが、同期と庁舎内の食堂や近くの飲食店でランチをすることが多いです。

**13:00** 公表資料作成  
当月分の消費者物価指数(東京都区部)中旬速報値の公表に向けて、独立行政法人統計センターで集計したデータを用いて、報道資料や分析用資料の作成を行います。

**15:00** 公表資料確認  
係内で作成した資料について、誤りがないように必ずダブルチェックをします。報道資料は数値等の記載を確認した後、別部署の審査を経てHP上で公開されます。

**17:00** 退庁  
最後にメールを確認し、急ぎの業務がなければ帰宅します。新宿駅や池袋駅が近いので、買い物をしたり、友人と食事をすることもあります。

### Schedule 井手係員のとある1日

**9:00** 登庁 メール・新聞チェック  
登庁したら、まずメールをチェックします。実施中の調査に問題が起きていないか、至急対応すべき事項がないか等を確認します。特に公表直後の日は、調査結果を引用した記事や関連する記事がないかチェックを行い、収集した情報を課内で共有します。

**10:00** 関係者との定例会  
経済構造実態調査は関係者が多いため、密に情報共有を行っています。実施中の調査の回答状況の確認や、調査対象からの問合せの共有などを毎週行っています。

**11:00** 統計ユーザーからの問合せ対応  
この日は先日公表した結果について、ユーザーの方から問合せがありました。ユーザーの方が知りたい情報について、分かりやすく説明します。経済構造実態調査は地域別の結果も公表しているため、地方自治体の職員からの問合せも多いです。

**12:00** お昼休み  
庁舎内の食堂でランチをとることが多いです。時折、同じ課の上司に近くにある飲食店に連れて行ってもらうこともあります。

**13:00** 疑義照会対応  
昨年実施した調査において、調査対象に御回答いただいた調査票を精査します。記入誤りの可能性がある調査票があった場合には、統計センターから疑義として共有されるので、過去の回答値や産業ごとの趨勢をふまえながら、その対処法をひとつひとつ検討します。本作業は後に広く公表される数値に影響するため、特に慎重に行います。

**15:00** 公表資料作成  
今日は統計センターで出力された結果を用いて報道発表資料や分析資料を作る日です。この日に作った資料を基に、公表日まで公表結果の検討や分析を進めていきます。

**18:00** 退庁  
特段急ぎの業務がなければ帰宅します。退庁後は統計や英語に関する資格の勉強や、職場の上司や同期、大学の友人と飲みに行くことが多いです。霞が関で勤務している同期や他省庁の方と飲みに行くこともあります。

## 06 Q&A よくある質問

**Q** 入省するにはどのような知識・能力が必要ですか。統計や法律などの専門知識がなくても大丈夫でしょうか。

**A** 専門的な知識は大いに役立ちますが、入省後に身につける職員も大勢います。

入省後は統計のみならず、法律や経済の知識やコミュニケーション能力などを含めたより実践的で幅広い知識・能力が必要となるため、多くの職員は入省後に業務経験を積みながら少しずつ身につけていくことになります。統計の知識やデータ処理のスキルなど既に持っている知識や能力があれば大いに役に立ちますが、それよりも理系的なセンスを活かして専門性を深めていく探究心や、未知の分野にも積極的に挑戦する好奇心・向上心を持っていることが重要です。入省後、研鑽をサポートする研修も豊富に用意されています。

**Q** どのような試験区分から採用していますか。

**A** 理工系はもちろん、農学系や人間科学区分からもチャレンジしていただけます。

現職の職員は、理工系の試験区分(工学、数理科学・物理・地球科学、化学・生物・薬学)からの採用者が多くなっています。しかし、例えばデジタル、農業科学・水産、農業農村工学、森林・自然環境、人間科学などの試験区分の合格者も、統計行政を中心にご活躍いただけます。また、総務省では出身大学(大学院)や学部(研究科)、試験の順位に関係なく、人物本位の採用を行っています。

**Q** 国際的な仕事をする機会がありますか？

**A** 国際的な舞台にも活躍の場があります。

人事院の制度を利用して海外の大学院で学位を取得した職員や、ニューヨークにある国際連合の統計担当部局に派遣された職員もいます。また、国際会議への参加など活躍の機会も多く用意されています。





総務省



## 総務省統計局

### 総務省第2庁舎

〒162-8668 東京都新宿区若松町19番1号

電話 03-5273-2020(代表)

●総務省統計局ウェブサイト

<https://www.stat.go.jp/>

●総務省総合職事務系(理工系)採用情報ウェブサイト

[https://www.stat.go.jp/info/saiyo/sougou\\_top.html](https://www.stat.go.jp/info/saiyo/sougou_top.html)

●総務省総合職事務系(理工系)採用担当

E-mail : [saiyo-rikou@soumu.go.jp](mailto:saiyo-rikou@soumu.go.jp)

